

平素は当連盟に格別のご支援、ご協力を賜り誠に有り難うございます。今年度も新型コロナウイルスの影響で、大会、審査会、講習会などの諸行事の中止・延期などにより、会員各位には多大のご迷惑をお掛けしました。「おおさか剣道かわら版」お試し創刊号発刊から一周年にあたって、お礼とごあいさつに代えて編集会議の様子をご紹介します。

1. なぜ今？

コロナ禍の「稽古もない」「大会も試合もない」「講習会もない」こんな剣道離れの時期に、今まで培ってきた固い絆をもう一度強くしなければとの思いでスタートしました。

2. どのように絆を固める？

剣道大好き仲間が、コロナ禍の今何を思っているか気兼ねなく吐露する癒しの場を提供できればと期待しています。

3. どんな展開を期待して？

「聞いて聞いて」「そういえば昔〇〇先生がこんなことゆうてはったなあ、聞いた話やけど」「チャウチャウちゃんちゃう？それはこういうことやで、知らんけど」と。そう、今はご法度になっている飲み会付きの「あの第二道場」でのワイガヤ（わいわいがやがや、とりとめもない話）。イメージは異次元・異文化・異人種が剣道大好きというだけの接点で雑多にまじりあう交差点だと思っています。

4. 考えているシリーズは？

『もっと知りたい：楽しく取材・投稿しよう』

—聞いて聞いて、こんな話があるねん—

A.地域だより B.掲額を訪ねて C.この旗の下に
D.なにわの剣豪伝 E.合格者と手記

ちょっと趣旨は違いますが、こんな業者さんも応援してくれて、F.名刺広告

『もっと知ってほしい』

—ついでにこんな話も知っといた方がええなあ—

A.剣道用語の解説 B.技術論・精神論 C.指導法
D.先人の教え紹介 E.イベント紹介

ちょっとニュアンスが違いますが、原点に戻る
F.海外シリーズ（外国から見た日本の剣道）

5. 早い話がみんなでつくる町内会の会報！？

立派な装丁の豪華本は不要。WEBを活用した、A3-裏表1枚（A4原稿4枚）のお手軽なみんなの広報誌です。コロナなんかには負けずに頑張りましょう！

2022



会員の皆様からの投稿、寄稿大歓迎！！
お気軽に企画をお持ち込みください。

E-メール：info-shinsa@osa.kendo.or.jp
までWORD等の電子データでお送りください。
※ただし掲載するかどうかは編集長が決めますので、万一ボツの場合はご容赦ください。

今年もよろしく



<この1年の掲載リスト索引>

1/1 発刊挨拶、剣道大好き、北地区講習会
3/1 文化講演会、剣道大好き、表彰
4/1 (号外) 全日本観戦記
5/1 掲額「松武館」、剣道大好き、大浜体育館
6/1 (号外) 居合道特別講習会

7/1 剣道大好き、掲額「心技館」、腰を立てる
9/1 剣道大好き、マスターズ大会、日本人と刀
10/1 (号外) 北地区講習会、剣道塾
11/1 剣道大好き、日本人と刀
12/1 (号外) 全日本観戦記、審査に当たって

シリーズ「瞬目」③ ～瞬目（まばたき）に見る注意集中の特徴（3）

濱口雅行先生による連載第3回です。

瞬目に見られる注意集中の特徴を2回にわたってお話しさせていただきました。今回、話題は「残心」へと展開していきます。しかし、瞬目から離れるわけではなく、逆に他のスポーツ種目経験者の瞬目と比較することにより、剣道経験者に発生する瞬目の特徴的な現象を認識していただきたいと思います。そして、それがどのように残心との関係を示すのか、ご理解いただくと大変有難いです。

前号でお話したように、人はある行動の区切りや感情により自発性瞬目（無意識）を発生します。そこには、緊張からの解放や次への備えのための心の切り替えが理由として考えられます。

そこで、その瞬目発生状況を実際を確認したいと思いますので、まずは皆さんを実験室にご案内しましょう。調査は、各スポーツ種目の実践中では困難となりますので、注意・集中の状態を机上において模擬的に作り出し、機器を使って測定するという方法を採用します。実験参加者は、剣道以外にはサッカー、野球、水泳、弓道、アーチェリーなどの男子選手です。

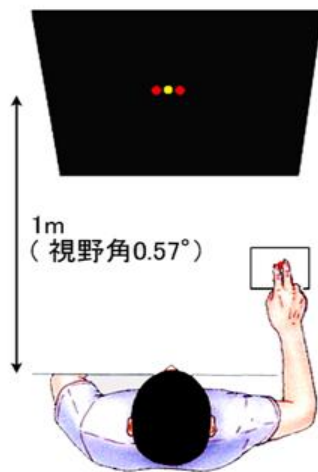


図1

彼らは、図のように椅子に楽に腰をかけた状態で右手を机上にのせ、指はいつでも光電スイッチを押せる状態で待機します。正面には3つの電球（色：中央は黄色、左右は赤色）が水平に設置されています。そして、最初に点灯する中央の黄光点（第1刺激）を注視するように指示した後、

左右どちらかの赤光点を50%の確率でランダムに点灯させました（第2刺激）。参加者には右の赤光点が点灯した時のみ出来るだけ早く光電スイッチを押し、左の赤光点が点灯した場合は光電スイッチを押さないという選別課題を与えました。

参加者は選別を間違えることなく、より早く光電スイッチを押そうと競争意識も働き、集中心を高めています。なお、全員に対して瞬きを我慢するという指示は出していません。

結果は、予想通り剣道を含めた全種目の全参加者において、第1刺激と第2刺激の間で同様の瞬目抑制がみられました。理由は、第2刺激である左右のどちらの電球が点灯するのか、しっかりと注意を向けていたためと想像できます。しかし、話はこれで終わりません。剣道経験者では第2刺激の後も瞬目抑制がみられるという極めて稀な結果が認められたのです。通常は第2刺激の課題を終了すると、注意を向けるという精神的行為の区切りや持続していた緊張を緩和するために瞬目が発生するものなのです。この結果は、剣道経験者では課題（目的）終了後も注意・集中が継続して行われていたことを意味します。さらに、その第2刺激後の瞬目は、競技力の高い選手ほど抑制時間が長いことも分かりました。

この点から鑑みますと、剣道経験者では、特に競技力の高い選手ほど普段の稽古において習慣的に打撃後も注意の継続を強く意識するといった訓練を行っており、第2刺激後の瞬目抑制時間の長さには、その影響が反映していると考えられます。

ところで、日本剣道形の稽古では、切った後の「目付けによる残心」を厳しく指導されます。気構え・身構えという次への備えを怠らないよう注意の習慣化をするためです。剣道と形の稽古はよく表裏一体と言われますが、今後は形稽古においてもこのように「目付けによる残心」を一層心掛けることにより、剣道の際に打突後も気構え（注意）が緩まず、自然に目に見える形で身構えを示すことができるようになるのではないのでしょうか。

その残心について歴史的にみてみますと、柳生宗矩が遺した「兵法家伝書（1632）」に「残心の事」として初めて登場し、「油断大敵」を教えています。剣術・剣道の中に400年間脈々と受け継がれてきた伝統文化の「心性」を忘れてはなりません。今回、お話しさせていただいた「残心」をその矜持として再認識していただく機会になれば幸いです。

（大剣連・全剣連理事

剣道八段教士 濱口雅行）



「コロナに負けるな！」杖道部活動だより

まずは「杖道」ってどんな武道？ ～ご紹介します。

→剣術を基本に、槍・薙刀の技を取り入れた「形武道」です。

→子どもから高齢者まで、年齢や性別の区別なく誰でも安全に稽古できます。

杖道で使用する武具は、

長さ128cm、直径2.4cmのどこにでもあるような白樫の丸棒（杖）。打ちかかる太刀（木刀）に対し、この「杖」を操り、実戦さながらの「形」を通じて修練をする武道です。

杖道の特徴は、

「突かは槍、払えば薙刀、持たば太刀、

杖はかくにも外れざりけり」

と古来から伝わるように、剣術を基本に槍、薙刀の技を取り入れていること。さらに前後がなく、特定の部位を持つ必要もない杖の特性から、左右の区別なく間合を自在に操り、千変万化、あらゆる変化に対応する総合武術です。



現在、全日本剣道連盟杖道には、基本12本、形12本が制定されており、約400年前に流祖「夢想権之助勝吉（むそうごんのすけかつよし）」によって創始された「神道夢想流杖術」がその源流となっています。

また、杖道は「形武道」ですから、性別や年齢に関係なく安全に一人ひとりに合わせた稽古ができます。杖道の試合では、小学生から80歳を過ぎた高齢者、男性・女性を問わず同じ条件で試合をしています。

杖道に必要な物は「杖と木刀、剣道着、袴」で、防具はつけません。

◎杖道の心

「傷つけず 人をこらして戒しむる

教えは杖の外にやはある」

杖道は、丸棒という平凡で非攻撃的な杖の形状と、打ちかかる太刀を制圧する「後の先」を基本とした「真剣形」による修練が特徴です。

「傷つけず 人をこらして戒しむる 教えは杖の外にやはある」と伝書にあるように、平和と調和をめざし武の徳を实践する武道であり、まさに全日本剣道連盟の剣道理念の实践に通じる武道です。



◎杖道の歩み

・杖道の発祥

→「宮本武蔵」に剣で敗れ、杖道を編み出した流祖「夢想権之助」

→明治維新までは藩外不出の武術として福岡・黒田藩に伝承

権之助は常陸国（現茨城県）で天真正伝香取神道流と鹿島の新当流を学んだ後、武者修行の途につき、その途上、剣豪・宮本武蔵に試合を挑み敗れました。

以来、権之助は、諸国を遍歴し武者修行の末に、太宰府天満宮の神域に連なる宝満山竈門神社に祈願参籠して神道夢想流杖術を編み出し、再度、武蔵に挑戦、武蔵を打ち破ったと言われています。この後、権之助は福岡・黒田藩において杖術を教え、神道夢想流杖術は明治維新まで福岡・黒田藩のお留め流として同藩に伝承されてきました。夢想権之助神社→福岡県太宰府竈門神社宮内にある「夢想権之助神社」（昭和42年建立）



・杖道の全国展開

→中興の祖・清水隆次範士、福岡から東京、そして全国へ

→昭和31年に「全日本剣道連盟」加入、昭和43年に「全日本剣道連盟杖道」制定、昭和49年に「第1回 全日本杖道大会」開催

明治維新により藩外不出の神道夢想流杖術も解禁、一般にも紹介され伝承されるようになりました。

そのような中、昭和初期には「清水隆次」（神道夢想流杖道25代師範）が縁あって上京、昭和6年には警視庁武道講師として採用され、警視庁において杖道の指導にあたりました。同時に一般への普及にも尽力し、その門下からは多くの高弟を輩出しています。

昭和31年には剣道の「柴田万作先生」や「斎村五郎先生」のすすめもあり、「全日本剣道連盟」に加入しました。

昭和43年には5年にわたる検討を経て、基本12本、形12本からなる「全日本剣道連盟杖道」が制定されました。

この全日本剣道連盟杖道が制定されたことにより、公平かつ客観的な審査・審判が可能となり、昭和49年に東京タワーの直近 芝学園において念願の「第1回全日本杖道大会」が開催されました。同大会は当初から段位別で老若男女の区別なし、オープン参加による大会として、現在では全国から500名を超える杖友が集う大会となっています。

～がんばっている皆さんを
応援しています!!～



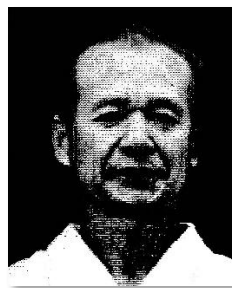
ホテル サンライフ
副支配人 久保 浩一
〒550-0004 大阪市西区本町3丁目3番6号 ☎06(6443)1231
FAX06(6443)2183
E-mail: webmaster@hotel-sunlife.co.jp
URL: http://www.hotel-sunlife.co.jp

●本館/大阪キャッスルホテル
〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町1番1号 ☎06(6942)2401

◎大阪における杖道の歩み

→昭和27年、中嶋浅吉先生が大阪府警察機動隊杖道師範に

→民間普及にも尽力し、少年剣道では剣道・居合道・杖道の3道を実践



(杖道教範
中嶋浅吉先生)

大阪における杖道は、清水隆次先生の高弟であった「中嶋浅吉先生」が、昭和27年に大阪府警察機動隊杖道師範に採用され、警察のみならず民間へも普及。昭和40年代中頃、剣道チームに沸く中、少年剣士たちに剣道・居合道・杖道の3道を指導。更には、当時、杖道界では珍しかった団体戦を実施するなど、先進的な取り組みで関西

における杖道の礎を築きました。

例年、6月には「大阪杖道大会（個人戦）」、9月頃には「関西杖道優勝大会（団体戦）」を開催し、近畿一円の杖友の参加も得て交流を図っています。

現在、大阪府剣道連盟杖道部では19道場が活動しています。詳しくは大阪府剣道連盟ホームページの「道場検索」をご参照ください。

<https://osa-kendo.or.jp/dojo>

(大阪府剣道連盟常任理事 杖道範士八段 森本訓史)



代表取締役 社長
谷口 和宏
KAZUHIRO TANIGUCHI
谷口印刷製本株式会社
〒553-0001 大阪府大阪市東淀川区西四丁目二番二号
TEL: 06-6416-4581(主線) 06-6416-4582(分機)
FAX: 06-6416-4581(主線) 06-6416-4582(分機)
携帯: 090-3381-7171
E-mail: info@taniguchi-print.co.jp
URL: http://www.taniguchi-print.co.jp

JPS
第1771(1817)号
日本印刷振興会 印刷事業部
印刷製本技術協会 認定企業

大正十二年創業
伝統技術に心を込めて
今までも。これからも。



TANIGUCHI
PRINT
OSAKA FUKUSHIMA MADE IN JAPAN

＜お知らせ＞

花澤博夫先生（剣道教士八段）の長年にわたる剣道への研鑽と思いが詰まった「自伝」を紹介させていただきます。
先着10名様に進呈いたしますので、ご希望の方は剣道連盟事務所までお電話にてご連絡ください。 ☎Tel 06-6351-3345

～あとがきから～

古稀を迎え剣道人生を振り返ってみると、剣道で生かされていた事に改めて感謝しています。(中略)一読していただき忌憚のないご意見を頂くことで、今後の剣道修行の糧にしたいと考えております。

